

まちづくり基金（ふるさと納税）の状況

平成29年3月31日現在「まちづくり基金」の状況をお知らせします。

◆平成28年度分
3,326件 40,352,323円

- (内訳)
- ・まちづくり・産業振興・観光に関する事業 12,660,000円
 - ・健康・福祉・医療に関する事業 4,242,097円
 - ・子ども・子育て支援と教育・文化・スポーツに関する事業 7,100,226円
 - ・環境保全・森林整備に関する事業 3,430,000円
 - ・事業指定なし 12,920,000円

ありがとうございました。

了承いただいた方のお名前を町ホームページにて公開しております。
 ※町ホームページ→ふるさと納税にお進みください

平成27年度末までにみなさまからご寄付いただきました「まちづくり基金（ふるさと納税）」を下記のとおり平成28年度の事業で利用させていただきましたのでご報告いたします。

みなさまからの暖かいご寄付により、事業を進めることができましたことに感謝するとともに厚くお礼申し上げます。

【平成28年度 まちづくり基金利用状況】

事業名	金額(円)
未来につなぐ森づくり推進事業	1,444,219
とみの森遊歩道安全柵設置工事	1,328,400
公園管理作業用トラクタ購入	3,834,000
地域敬老会事業補助金	1,910,600
高齢者等緊急通報システム借上料	1,000,000
道南ドクターヘリ負担金	1,000,000
各会館管理委託金	1,000,000
小学校教育用パソコン整備	3,000,000
中学校教育用パソコン整備	3,000,000
合計	17,517,219

【お問い合わせ先】まちづくり新幹線課企画係 ☎2-2450

【毎日の備えが、明日へ繋がる】 ～「自助」「共助」「公助」の役割について～

災害を最小限に抑えるには、自助（じじょ）・共助（きょうじょ）・公助（こうじょ）それぞれが役割を果たしていくことが大切です。

1. 「自助」～自分の身を自分の努力によって守ること
2. 「共助」～身近な人たちがお互いに助け合うこと
3. 「公助」～国・道・町などの公的機関による支援

このうち、「公助」のみの災害対策には限界があります。平成23年の東日本大震災では、本来被災者を支援すべき行政機関が被災し、被災者支援が出来ませんでした。また、平成7年の阪神・淡路大震災では、地震によって倒壊した建物から救助され生き延びることが出来た人の約8割が、家族や近隣住民等によって救出され、消防、警察及び

自衛隊によって救出された人は約2割との調査結果もあります。

災害から身を守るためには、自ら守る「自助」はもちろん、近隣の人々が助け合う「共助」が極めて重要です。一方、「公助」はみなさん一人一人に迅速に支援することが難しく、また公的機関そのものが被災して機能が麻痺することもあるため、「公助」のみでの対応には限界があります。

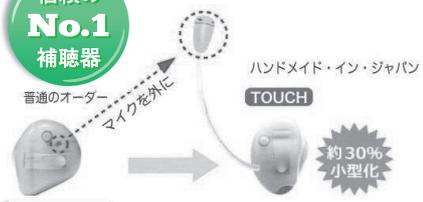
このようなことから、みなさん自身が「自分の身は自分で守る」、「自分たちの地域は自分たちで守る」、「これに足りない部分を公的機関が補う」という考えを持ち、災害に備えることが必要です。

災害は突然やってきます。いざというときに適切な行動ができるように日頃からよく考えておきましょう。毎日の備えが、明日へ繋がります。

(有料広告)

「耳、本来の特長」を活かす 補聴器

Belton TOUCH-Promise マイク分離型 オーダーメイド 驚嘆の64バンド!!



- 雑音下でも会話がよりはっきり、音がこもらない
- 従来よりも約30%小さくてパワータイプあり
- 風切音、ピーピー音防止、携帯電話もOK
- オーダーメイド世界初内部部品までナノコート、汗や細かいホコリから補聴器を保護

【無料訪問サービス】
 ご自宅・職場・集会所・施設・病院等
 ご指定の場所にお伺いします。
 ●アフターサービス ●きこえやすさ
 ●使いやすさ ●安心と信頼
 『お客様の満足を保証します』

完全予約制 アカツカ商会 長万部町元町 ☎2 2603 / 富士電器商会 長万部町大町 ☎2 2365 / 函館補聴器堂 聞こえの相談ダイヤル 0120-413375